

## 2014年滋賀県知事選挙の結果について

2014年7月14日 明るい県政をつくる会

7月13日、滋賀県知事選挙が投開票されて、三日月大造氏253,708票(46.33%)、小鏖隆史氏240,652票(43.94%)、明るい会の坪田いくお氏は得票数53,280票(前回比22,154票増)、得票率9.7%(前回比3.41%増)という結果になりました。

まず何よりも、「明るい会」と坪田氏を支持していただいたみなさん、また支援の様々な活動を担っていただいた皆さんに心から感謝を申し上げます。私たちの力不足で坪田知事誕生にいたらなかったものの、皆さんに支えられ、精一杯闘い抜けたことにお礼を申し上げます。

今回の知事選挙は、自・公・みんな・維新の会が推す元経産省・内閣官房出身の候補と、元知事が後継者とした元民主党の国会議員、そして「明るい会」推薦の坪田氏の三人による争いでしたが、集団的自衛権行使容認の閣議決定に加え、原発、消費税、TPPなど国政上の問題が、県民の命と暮らしに直結していることから、これらの問題が最大の争点として争われる選挙戦となりました。自公政権の下で進められている憲法改悪、原発再稼働推進、大型公共事業優先・大企業優遇の政治を許すのか、それとも憲法を守り、原発再稼働を許さず、県民のいのちと暮らしを最優先する政治に転換するかの選択が問われ、とりわけ7月1日の集団的自衛権行使容認の閣議決定以降は、「潮目が変わった」と言われる程に、この国のあり様を問う「戦争か平和か」の歴史的岐路に立たされつつあるとの県民の不安が広がり、文字通りの「暴走」に対する怒りが強く感じられる選挙戦となりました。

その結果、当初「圧勝」と言われていた「自公候補」が落選となった結果に示されるように集団的自衛権行使容認の閣議決定をはじめとする、安倍内閣に対する県民のきびしい審判が下されたことは明らかです。

私たち「明るい会」は、坪田いくお候補を先頭に政策を前面に「戦争する国づくりノー、憲法を守る」「原発再稼働反対、県民のいのちと琵琶湖を守る」「新幹線新駅より暮らしに予算を」の3つの選択を県民に問い、選挙戦における論戦をリードしてきました。結果、「坪田候補が自公候補を追いつめ三日月候補を浮上させてきた」と言われることとなったのも確かです。

私たち「明るい会」は、今回の知事選挙の結果を踏まえ新しい知事が、選挙を通じて示された県民の声に耳を傾け、「真摯に」「謙虚に」「連合労組など一部勢力に傾斜することなく」清潔で公正な県民の暮らしを守る県政を進めることを求めるとともに、何よりも国に対してしっかりモノを言う「中央目線でない」立場を貫き集団的自衛権行使容認・原発再稼働に反対すること、また新幹線新駅建設は断念し、県民の要求に沿った予算編成を進めることを求めます。私たち「明るい会」も選挙戦を通じ、寄せられた県民の思いを大切に、引き続き「明るい滋賀をつくる5つの約束」の実現へ全力をあげて奮闘する決意です。

以上